

研究所だより

第131号

令和3年7月20日発行

可児市教育委員会

可児市教育研究所

可児市広見1丁目5番地

TEL(0574)63-4841

e-mail :kyoikukenyu@city.kani.lg.jp



健気な子どもたちの「笑顔の“もと”」

可児市 教育長 堀部 好彦

この4月、教育長を拝命。重責を感じる日々、考え続けていることがあります。

可児市では、毎年子どもたちにQUアンケートを実施しています。アンケート項目に「あなたのクラスは明るく楽しいですか」というものがありますが、この調査項目について昨年度可児市全体の結果を見て驚きました。「とてもそう思う」など肯定的な回答をした子どもたちが、なんと小学校では全学年で90%を超え、中学校でも全学年で80%程度の値となっているのです。

昨年は3月から5月まで3ヵ月間も休校となり、その後も様々な教育活動が制限されていました。それでも、可児市の多くの子どもたちは、「学校が明るく楽しい」と思いながら過ごしてくれたのです。このように、コロナ禍においても子どもたちは学校生活に充実感をもち、確かな成長を続けました。「笑顔の学校づくり」の大きな成果と歓喜の声を上げるとともに、なんて健気な子どもたちなのだろうと、心が震えました。

教育活動が制限される中、なぜ可児市の子どもたちの多くが、「学校が楽しい」と思っているのでしょうか。この子どもたちの「笑顔の“もと”」は何なのでしょう。

私は、この問いの答えを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。答えは、一つではなく学校によって異なり、多様なものなのかもしれません。でも、「限られた活動の中で、何が子どもたちの笑顔につながったのか」を考えることは、とても意味のあることではないでしょうか。

運動会や修学旅行などの大きな行事が十分にできなくても、毎日の給食が“黙食”となっても、学校が楽しいと多くの子どもたちが感じている背景には、教育の本質に根差した各校の取組が潜んでいるはずです。また、全面実施となった新しい学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」等に結び付くような指導も、そこには存在しているのかもしれない。

みんなで知恵を絞ってそれを見極めることは、「笑顔の学校づくり」をさらに推進する新たな視点を見出すこととなります。今後アフターコロナの時代を迎えた時、それは各校の中核となる取組として花を咲かせるのではないのでしょうか。

また、「限られた活動の中で、何が子どもたちの笑顔につながったのか」を見極めていくことは、皆さんの働き方改革を推し進めることにもなります。これまで子どもたちのために、これも、あれもと考えてきたのが、コロナ禍によりこれもできない、あれもできない、だから何をこそ大切にするのかと、自らの仕事をさらに見つめ直す動きとなることを期待しています。

かつてない難局は、かつてない発展の基礎となる。「経営の神様」松下幸之助は、そう言っています。コロナ禍収束の見通しはまだ立ちませんが、この難局で健気な子どもたちの「笑顔の“もと”」を探ることは、かつてない学校の発展につながります。一緒に考えましょう！

市SSW(スクールソーシャルワーカー)活用事業

1 ねらい

「児童生徒の教育相談体制の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(H29.1 文部科学省)」における「今後の教育相談体制の在り方」の具現化をめざし、学校内の関係者がチームとして取り組み、関係機関と連携した体制づくりを進める上で、SSWをチーム学校の一員として位置づけ、機能させることで、教育相談体制の充実を図ることをねらいとしています。

2 SSWとは?

SSWは、社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家です。本市では、社会福祉士や精神保健福祉士等の有資格者や教育、福祉の分野において活動経験の実績等がある方の中から選考しています。

SSWは、児童生徒や保護者への直接支援を中心とするのではなく、教職員へのコンサルテーション(専門家による指導・助言を含めた検討)を中心とした活動を重視しています。問題を抱える児童・生徒の支援をより効果的に行うためには、学校の教職員等が、スクールソーシャルワークの視点を持って対応することが大切だと考えているからです。

そこで、SSWはケース会議や対応を進めていく上で、ソーシャルワークの専門性を取り入れた新たな効果的支援が可能となるよう、課題解決の中心となる教育相談コーディネーターなどの教職員を支援しながらチームの一員として活動することを目指しています。

児童生徒指導・支援の校内システムを中心にケース会議が位置付けば、効果的で見通しのある先手を打った対応が可能となり、そのことが児童生徒の問題の改善にもつながります。手立ては何人かの役割分担になるため、結果として、チームで対応することとなり、教員一人で問題を抱え込むことがなくなります。チーム対応が日常化されるようになれば、教職員間の同僚性も高まります。

たとえ、SSWがいなくなっても、学校の教職員が異動により入れ替わっても、「学校の教職員等が、スクールソーシャルワークの視点を持って対応する体制」は残っていくことを目指して本事業が出発しています。

3 SSWの職務内容は?

- ◇問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- ◇関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ◇学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ◇保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ◇教職員等への研修活動

4 可児市の支援体制

(1)令和3年度の配置校

- ・蘇南中校区に1名(配置校:蘇南中・今渡南小)
- ・中部中校区に1名(配置校:広見小)
- ・広陵中校区に1名(配置校:広陵中・帷子小)

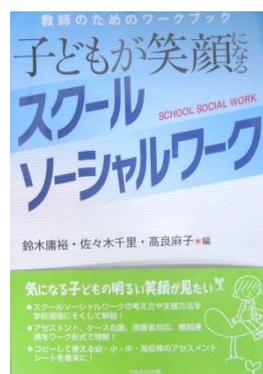
(2)勤務について

勤務は、1日6時間を基本とし、年間80日程度(500時間程度)です。

(3)スーパーバイザー(以下SV)の設置

社会福祉に関して高度で専門的な知識、経験を有する専門家1名をSVとして配置し、SVが、SSWからの相談を受けたり現場で援助を行ったり定期的にSSWに対する研修を実施したりすることで、SSWの資質向上を図っています。

5 SSWについて学んでみませんか?



SVの佐々木先生が著者の一人になっている左の本は、SSWの入門書としてお薦めの一冊です。

この夏、読んでみませんか?教育研究所にもありますので、お寄りの際は、どんな本か手にしてみてください。

どの子にも「自信」と「覚悟」をもたせる「ばら教室KANI」

— 「できなくてあたりまえ」とことん寄り添う外国籍児童生徒適応指導教室 —

ばら教室 KANI は、今年度で17年目を迎え、これまでに898名（2021年5月末現在）が修了しました。2020年8月31日には、広陵中学校内に「第2ばら教室 KANI」を開設しました。

第1ばら教室 KANI は、初期的な日本語や学校生活に必要なルールを学びます。それを基礎に第2ばら教室 KANI では、日本の学校の授業や日常生活にスムーズに適応できるようレベルアップした内容を学びます。

【自信がもてず不安な子どもたち】

フィリピン、ブラジルの子どもたちが多いのですが、ベトナム、中国、ペルー、モンゴルなど様々な国の子どもたちが学んでいます。

入室当初の日本語がわからないという不安は私たちが想像している以上に大きいです。文化の違いから今まであたりまえだと思っていたことと違うことを求められます。「わからない」「自分を否定される」という状況に常におかれ、自分に自信がもてず不安な気持ちで毎日を過ごしている子が多くいます。

【基盤は「安心感」】

そこで、「丁寧に、根気よく、何度でも」（できなくてあたりまえ、腹を立てず、気長に）、「まず聞く。共感する。間違えても認める。決してけなさない。」（その子の背景や文化の違いを尊重する。）ことを大切にしています。

基盤は「安心感」です。

【第1ばら教室 KANI は正しく・温かく】

日本の学校生活に適応するために、正しい姿勢、聞くこと、あいさつ、朝の会の日直、くつやかばんのそろえ方、はしの使い方、傘のさし方等々を指導しています。授業も生活も基本日本語です。日本語に耳を慣れさせるためです。

見事できたとき、指導員は満面の笑みで「すごいね。よくできたね。頑張ったよ。」とほめた

たえます。子どももうれしくて自慢気な顔をしています。正しく指導し・温かく見守ることで、子どもたちは「自信」をつけていきます。

【第2ばら教室 KANI の在籍校体験】

子どもたちにとって学校は「大きくて高い壁」です。そこで、子どもたちが在籍する学校を体験する経験「在籍校体験」を複数回実施する実践を積み上げてきています。



▲花の絵をかきました。まだ、すこしドキドキします。

「もっと日本語を勉強しないと、学校ではついていけない。」「今の数学の問題は何年生の問題なの？」と実際に在籍校級で学習や生活することで、現実の状況を肌で感じて戻ってきます。

だからこそ、ばら教室では目つきがより真剣になり、体を前のめりにして学ぼうとする姿勢がみられるようになります。

在籍校体験で「担任の先生はどんな顔？」という課題があります。担任に勇気を出して自分から話しかけなければなりません。こうして日本語力が飛躍的に伸びていきます。いくつものチャレンジを乗り越え、在籍校へ戻る「覚悟」ができるのです。

【よさと可能性を信じる】

ある中学生の言葉が今でも心に残っています。「自分のことを心配してくれる先生や仲間がいることは本当にうれしい。ばら教室で過ごせて幸せです。ありがとうございました。」

コロナ禍で苦しくつらい思いをしながらも、あきらめないで歩んでいる子どもたち。そのよさと可能性を信じ、引き出し・伸ばしていく覚悟を私たちももたなければと思います。

笑顔でつながり 笑顔が広がる

東明小

可児市立東明小学校 教頭 中島 康英



3年ぶりの可児市。以前、主幹教諭として中部中学校に籍を置き、東明小、広見小、旭小に週1日半日ずつ兼務で勤務していたので、懐かしさ半分でした。一方、教頭としての3年間の経験を経ての赴任であり、責任を感じ襟元を正して、桜ほころぶ校門へ誘われる道を久しぶりにくぐりました。

コロナ禍であり、継続して登校時の手指消毒と検温票確認を児童玄関で行っています。私も、養教、教務主任、当番の先生と4人で毎日、児童を迎えています。最初は「誰だろう？」から始まるも、3か月も経てば、「おはようございます！教頭先生、今朝ねえ・・・。」と打ち解けて弾ける笑顔と明るい会話で1日がスタートします。こういう積み重ねが大切なのだと実感する毎日です。

職員室では、子どもたちの話題でもちきりで、先生方の会話も弾んでいます。両隣の頼れる教務主任と事務職員に支えられながら、楽しく勤務しています。教職員一人一人が分掌を理解し、

「子どもたちを育てる！笑顔にする！」という思いに満ち溢れています。チームとして支え合い、協力しながら個と集団に応じて寄り添い丁寧な指導をしており、安心して任せて見守ることができている今日この頃です。

コロナ禍にあって、本来でしたら4月から顔を合わせているはずの保護者や地域の方々とは、一部の方としかお会いできていません。多くの活動が中止や延期となる中、何うと自主的な支援やPTA活動が積極的に行われている校風、地域とのこと、正に教頭としての出番として物心両面の準備を進めているところです。

これからも、本校の良さを生かした活動の中で、子どもたちが仲間や家庭、地域と「笑顔でつながり 笑顔が広がる 笑顔の東明小学校」をめざします。全ては、子どもたちの笑顔のために！

転入者の声

中部中での

「あたたかい かかわり」

可児市立中部中学校 教諭 塩谷 真奈



岐阜地区での3年間の勤務を経て、地元である可児市に赴任しました。新年度がスタートしてからあっという間に3ヶ月が過ぎ、夏休みを迎えようとしています。初めての中学校勤務に緊張していましたが、中部中学校のあたたかさに触れて、この学校で勤務できる喜びを日々噛みしめています。

中部中学校では、「仲間に共感し、認め合うこと」を意味する「あたたかい かかわり」を大切にしています。学級で「中部中のよいところ」が話題に上がった際に、どの生徒からも「あたたかい かかわり」の言葉が出てきたほどです。

授業では、『考えても分からないときは、「教えて」と言います。』『「教えて」と言われたら、分かるまで教えます。』を合言葉に、「学び合い」という個人追究を行います。「ここが分からないのだけれど、どうやって考えた？」と恥ずかしがらずに困り感を表現する姿、「なるほど、分かった。」と納得する仲間と一緒に深化を喜ぶ姿、「〇〇さんの考え、すごいね。」と感嘆する姿が自然なかたちで見られます。学び合いを通して、思いやりに溢れた「あたたかい かかわり」が育まれているのです。そして「あたたかい かかわり」があるからこそ、安心して学びに向かうことができるという好循環が生まれています。

このようなあたたかさは、授業だけでなく、生徒会活動、朝の挨拶ボランティア、掃除、スポーツフェスタなど、生活のあらゆる場面で見られます。「あたたかい かかわり」を第一に願い、感染症対策のある中でも活動を工夫して、ひたむきに進んでいく姿は、まさに学校の教育目標である「考え力を合わせて やり抜く生徒の育成」が体現されているのではないのでしょうか。とても頼もしく、勇気づけられます。

今は、夏休み前の締めくくりに燃え、さらに高めようとしている時期です。11月には、仲間と一体となって取り組み、絆を深める音楽会もあります。今後も生徒と共に成長し、生徒一人ひとりを大切にする先生方と共に、「あたたかい かかわり」を実現していく生徒の力をさらに引き出し、伸ばすために精一杯頑張っていきたいです。

ALTの紹介

本年度、5名のALTが小学校の外国語活動や中学校の英語で、各学校を訪問しています。5名のALTを紹介します。

Yvonne MARTINEZ (イボン マルティネズ)



Hi!

My name is Yvonne. I am from Mexico, but I grew up in America. This is my second year in Japan and first year in Kani City. I love foreign languages. I can speak 5 languages! My hobbies are playing guitar and traveling. I want to learn to play taiko! Let's enjoy learning English together!

Patricia VESTIL (パトリシヤ ヴェスティル)



Hello!

I'm Patricia. I love watching movies and going for walks. My favorite Japanese food is takoyaki. Let's enjoy English together.

Esther NJERI (エスター ヌンジャリ)



My name is Esther. I've been in Japan for about ten years. I love the Japanese culture. My favorite food is *karaage*. I LOVE KARAAGE. I'm looking forward to having fun with you all. Let's enjoy learning English together!!

Joan CHALLONGEN (ジョアン チャロンゲン)



Hello!

My name is Joan, I like Kani City. I like to play sports and to travel. I enjoy eating Japanese food and learning different cultures. Let's have fun with English!

Keegan SETTERS (キーガン セタス)



Hey!

My name is Keegan. I'm from America. This is my second year in Kani. My favorite food is yakiiimo and my hobby is cooking. Let's enjoy English class!

令和3年度 教育実践論文募集



1 令和3年度実践論文募集

今年度も教育実践論文を募集します。

昭和58年度から始まった教育実践論文の募集も今年度で38回目となります。

日頃、可児市教職員の皆様が子どもの成長を願って、日々共に歩んでいる姿、教育活動の創意工夫を論文にしてみませんか。

多くの積極的な応募をお待ちしております。参考に、昨年度の領域別応募数・入賞者を掲載します。

(1) 令和2年度実践論文応募状況

| 領域別 | 数 | 領域別 | 数 |
|------|----|------|----|
| 教科 | 13 | 学級経営 | 3 |
| 道徳 | 2 | 健康安全 | 0 |
| 特別活動 | 1 | その他 | 2 |
| 特別支援 | 2 | 合計 | 23 |

(2) 令和2年度実践論文審査結果

職名・所属名は、2年度現在です

☆ 優秀賞 (学番順)

| | | |
|-------|----|--------|
| 三井沙梨亜 | 教諭 | 帷子小学校 |
| 河合香穂里 | 教諭 | 旭小学校 |
| 林 美穂 | 教諭 | 広見小学校 |
| 高木 恵子 | 教諭 | 西可児中学校 |
| 古野 寿 | 教諭 | 西可児中学校 |

☆ 優良賞 (学番順)

| | | |
|-------|----|--------|
| 篠原 妃伽 | 教諭 | 今渡南小学校 |
| 水野 奈月 | 教諭 | 東明小学校 |
| 奥村 尚浩 | 教頭 | 広見小学校 |
| 三輪 恵汰 | 教諭 | 今渡北小学校 |
| 松尾雄太郎 | 教諭 | 今渡北小学校 |
| 加藤 沙紀 | 教諭 | 今渡北小学校 |
| 竹田 浩大 | 教諭 | 中部中学校 |

2 募集要項

(1) 目的

可児市学校教育課題の克服をめざした小学校、中学校の教職員の創意ある実践研究を広く募集し、もって実践意欲の喚起と指導力の向上を図る。

(2) 内容

① 小学校、中学校の園児、児童、生徒の指導および管理運営に関する実践研究であるもの

② 問題意識が明白で、仮説・実践・検証の過程が具体的かつ累積的で、一貫性のある実践研究であるもの

③ 他の公的機関に発表していないもの

(3) 執筆要領 (要綱は、次の通りです)

① 使用言語 現代仮名遣いで書かれた日本語

② 使用ソフト ワード、又は一太郎 (様式は岐阜大学教育学部同窓会HPダウンロード可能)

③ 本文の形式

A4版6ページ (22字程度×43行～50行×2段 横書き) 余白 上下左右各2.5mm程度

・1ページ目の冒頭に研究主題・(副主題)・所属・氏名を記載する (46文字程度×5行以内×1段)

・1ページ目に「概要」(46字程度×10行)を記載する。(入賞者についてはこの「概要」をそのまま論文集に掲載)

④ 写真・図表等の使用

写真は、全6頁で2枚程度 (各写真の大きさは11文字×5行以内)

図表等は、全6頁で3点程度 (各図表は判読できる大きさとする。)

写真等は、「写真1」「図2」などのように一連番号を付し、簡単な説明を付ける。

⑤ 参考資料

本編以外の資料は添付しない。

⑥ 参考文献等

参考文献等がある場合は、論文の最後に年代順に一括掲載する。

⑦ その他

写真等は児童生徒が特定されないように留意する。

※詳しくは、「岐阜大学教育学部同窓会HP」

参照

(4) 提出先

可児市教育研究所

(5) 提出期限

令和4年1月7日 (金)